

京都 法然寺の御詠歌

曾 我 晃 也 作 曲
菊 地 謙 雄 振 付

準 備		仏前に華籠二皿、散華四枚づつのせておく。右生左生二人舞（左右対象同じ舞）、両方からでて仏前一礼、外陣に向いて二人並んで合掌礼	
唱え奉る 京都 法然寺の		合掌	
御詠歌に		静かに立って両手を下ろす	
歌	呼間	舞	
(休)	四呼間	右足一步前に出しつつ両手下から中央を頭上に捧げ上げ(2 呼)、次に膝屈伸と共に両手頭上から両側を下し、左足を右足に揃えと同時に右手中央を真直に上方を指す(左手は真直ぐに下に伸ばしたまま)	
た			
だ			
	四呼間	右足を右横に一步踏み出し重心をかけると共に、両手下から両側下から両側を頭上に廻しあげ(2 呼)、膝を屈伸して左足を右足に揃えと共に両掌中央を降し、外に廻して体前に合掌する	
た			
ゝ			
ゝ	八呼間	今までの動作を左足から左方へ行う (手足反対)	
の			
(半拍休)			
オ			
ゝ			
め			
(休)	四呼間	両生内廻りスリ足で正面(外陣)に進む その時両手は今と同様に中央を頭上に捧げ上げ、更に両側を下して内側の片手合掌(両生別の掌) (他の掌は体前に頂く)	
よ			
ろ			
ず			
の			

歌	呼間	舞
 (半拍休)	四呼間	両生内廻りスリ足で正面(下陣)に進む その時両手は今と同様に中央を頭上に捧げ上げ、更に両側を降して 両生内側の片手合掌 (他の掌は体前に頂く)
つ		
み		
イ	八呼間	更に同様に片手合掌の手を換えて、道場洒水の如く、下図のようにスリ足で進む
は		
(休)	四呼間	両生中央向きとなり、両手下から眼前に捧げあげつつ二歩前進する
ふ		
か		
く	四呼間	両生スリ足で中央に進み、更に両手体中央を降し、更に外側を廻し相近づき、腰をおとし合掌して伸ばす
と		
	四呼間	仏前に向い華籠を取り頂く
も		
	四呼間	

歌	呼間	舞
(休)	四呼間	華籠を捧げて一步後退 仏前にて頭上に散華する
わ		
が		
ほ		
ん	八呼間	前の片手合掌の動作と同様に、下図の如くスリ足で進み、両生右手で上方に散華する
―		
(半拍休)		
が		
ん		
の		
―		
(半拍休)		
わ		
が		
―		
ほ		
―		
ん		
―		
―	四呼間	両生右足から華籠を捧げて中央に向かって二歩前進
(半拍休)		
が		
ん		
―	四呼間	両手仏前に走り寄り 華籠を仏前に置く
の		
―		
―		
―		

歌	呼間	舞
(休)	四呼間	両生右廻りして下陣に向いて両手下から中央顔前に捧げ上げつつスリ足で進む (内陣中央まで)
あ		
ら		
ん		
― (半拍休)	四呼間	両足を揃えて立ち止まり、左足を引いて右立膝となり、右手掌次に左手掌で膝におく
か		
ぎ		
―		
イ	四呼間	右足を引いて両立膝となり、両手下から中央上に捧げ上を仰ぐ
―		
り		
―		
は	四呼間	両膝を降し、正座すると共に両手両側を降して合掌低頭する
―		
―		
―		
		静かに頭を上げる
鈴		終って両手を膝に降し、再び合掌礼をして退場する

ポイント注意

ひたすらにお念仏を唱え、阿弥陀さまをお慕いし、阿弥陀さまに救われたいと願う気持ちで舞ってください。

【イーはー】 体全体の動き。手をまわしながら体の向きを変えます。

【あ ら ん …】 タイミング。まわるタイミングを合わせて両生右回りをします。